

# 特集 東条地域小中一貫校の 基本設計がまとまりました

東条地域小中一貫校開校準備委員会などで検討を重ねながら、設計を進めてきた、東条地域小中一貫校(2021年4月開校予定)の基本設計がまとまりました。引き続き、この基本設計をもとに実施設計に取り組みまいります。



▲県道小野藍本線からの景観イメージ

## 設計方針

加東市がめざす小中一貫教育が推進できる学校

4・3・2制(※1)に適した教室配置のほか、学年の垣根を越えた交流のため、日常的に集会や発表会ができる施設を設けます。また、各フロアに図書コーナーを設けるなど、児童生徒が主体的に学習できる環境を構築します。

## 安全・安心な学校

敷地内での歩車分離(※2)、職員室からの死角の少なさ、防犯設備の充実など、安全・安心に配慮した設計とします。

## 快適でゆとりのある学校

自然と調和し、木の暖かみや温もりが感じられる環境を構築するほか、動線(※3)の無駄を減らし、施設

内の移動に時間がかからない設計とします。

## 地域に根ざした学校

敷地周辺の住環境に配慮するほか、保護者や地域住民と連携が深められる地域交流の場としての側面も担います。

## 管理しやすく 長く使える学校

十分な収納スペースを備えるほか、維持・管理、修繕に配慮することで、将来にわたって長く使える設計とします。

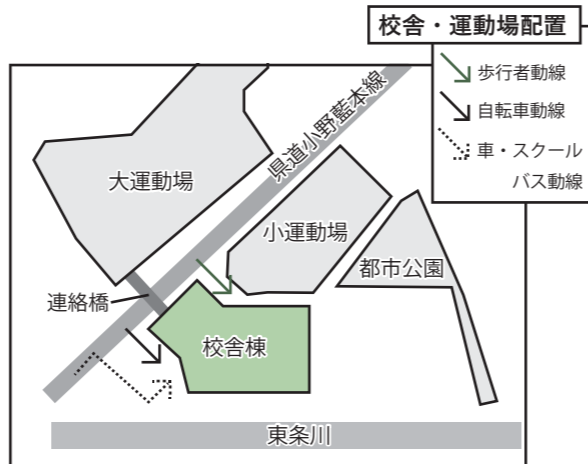
## 災害時避難施設として

地震に強い強靱な構造とします。また、東条川に隣接していることを考慮し、建物の1階の高さを敷地南側の河川管理道路よりも、約2m高くする安全な計画としており、さらに、3階に配置した大体育館は、災害時の避難施設にできるようにしています。

屋上プールについては、プールの水を含めた荷重を見込んで耐震設計を行うため、耐震性能に問題はありませぬ。また、プール槽の下に、屋根と同程度の防水処理を施した床板を設置し、排水経路も確保するため、下の階への漏水は生じない計画としています。

# 施設概要

敷地面積 約45,000㎡  
構造 鉄筋コンクリート造  
(二部鉄骨造)  
規模 地上5階建て  
建築面積 4,962㎡  
延床面積 13,229㎡  
※数値は基本設計時点



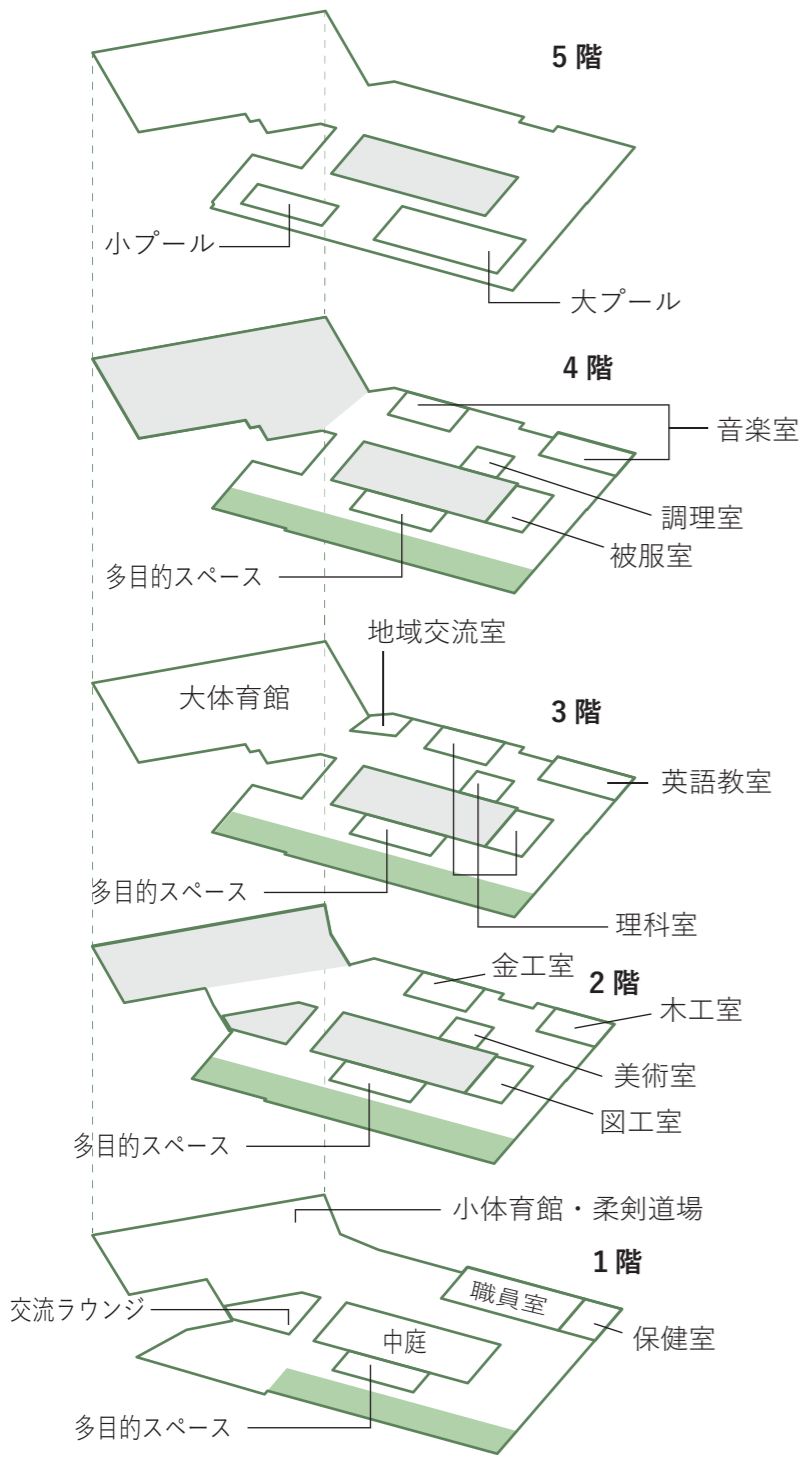
**東条川と故郷の景観を望む教育環境**  
中庭とそこに吹き抜けを擁した口の字型の校舎を、東条川に面した南側に配置することで、陽当たりも良く、地域の美しい景観を日々感じることができ、豊かな教育環境を確保します。

**周辺の環境と調和する施設配置**  
都市公園を敷地東側に再整備し、住宅街から校舎を離すことで、近隣の住環境に

対する影響が最も少ない計画とします。

**歩車分離**  
児童・生徒の安全を最優先するため、スクールバスや、給食車両を含む全ての車両進入口を敷地南西側に集約し、敷地内の歩車分離を明確にします。また、校舎側から県道を挟んで設置する大運動場までは連絡橋を設置します。

**県道小野藍本線の交通に配慮**  
敷地に入る車両が県道から直接入らないようにすることで、県道の渋滞など、交通への影響が少ない計画とします。



普通教室(1階:1・2年生、2階:3・4年生、3階:5・6・7年生、4階:8・9年生)、多目的教室など  
※教室の配置などは基本設計時点のもので、変更される場合があります。

## 東条地域小中一貫校の 基本設計報告会

東条地域小中一貫校基本設計の概要について説明しますので、どなたでも参加できます。ぜひご参加ください。

日時 6月17日(日)  
10時30分～  
場所 市役所2階  
201会議室